



2023年4月14日

各 位

会 社 名 プライム・ストラテジー株式会社
代表者名 代 表 取 締 役 中 村 け ん 牛
(コード番号：5250 東証スタンダード)
問 合 せ 先 経 営 管 理 部 執 行 役 員 城 塚 紘 行
(TEL 03-6551-2995)

2023年11月期第1四半期決算説明会 質疑応答集

当社の2023年11月期第1四半期決算説明会に際し株主・投資家などの方々からいただきました事前質問とそれらに対する当社からの回答について、以下の通りお知らせいたします。

なお、本開示は、市場参加者の皆様のご理解を一層深めることを目的に当社が自主的に実施するものがあります。決算内容の詳細については、2023年4月13日に開示しております決算短信および決算説明資料をご覧ください。

Q1 株価対策について教えてください。

当社の株価は、上場前の3度のストックオプション発行、資本業務提携、想定発行価格、公募価格を経て順調な株価形成をしてきたものと認識しております。上場後につきましては、現時点において株価について評価できる段階にはないものと考えております。

しかしながら、今後の株価対策としては、まず、当社の優位性の源泉は知的資本であり、知的資本の形成、社会的価値の発現を通じて企業価値の向上を行うことが重要であると認識しております。

また、当社のビジネスおよび利用しているテクノロジーは少し複雑なところがございますので、決算説明会の機会や、報道発表、自社および他社のコンテンツ提供等を通じて投資家の皆様を中心として、当社の事業をよくご理解いただけるよう努めていくことが企業価値の向上および株価対策に繋がるものと認識しております。

Q2 現在の株価に対する御社のご見解をお願いします。(割安/割高/適正価格) また、現在の売買高に関する御社のご見解をお願いします(出来高減少次第では株式分割の考え等がありますか)。

現在の株価についての当社の見解は、先のご質問の回答のとおりでございます。売買高についても現時点においては、まだ評価できる段階にはないものと認識しております。

しかしながら、流動性の確保は当社の企業価値に影響するものであると認識しており、株価の水準や売買高によっては、将来的に株式分割を検討して参りたいと考えております。

Q3 海外事業者(北米)向けのライセンス事業について、先行募集を開始されていますが、現時点で応募があった会社数を教えていただきたいです。具体的には、問合せがあった会社数、そのうち現時点での契約見込みの会社数を知りたいです。

先行募集への直接の応募自体は現段階においてまだございません。先行募集のコンテンツについては、今年8月以降に成立を見込んでいる北米および日本での2つの特許成立を契機とする営業活動、契約交渉に備えたコンテンツとして用意したものでございます。

現在、8月以降に向けて、国内でライセンスをご活用頂いている事業者様の事例公開の許諾交渉などの準備を行っており、8月の前後で、国内のSaaSサービス、CDNサービスなどを提供する事業者も含めアプローチを本格化する予定でございます。現時点においては、海外のいくつかのプラットフォームと初期的な対話を開始した段階でございます。

Q4 マネージドサービスのサービスでランサムウェア（身代金要求型ウイルス）によるサイバー攻撃ほどの程度防げるのでしょうか。過去の事例と将来の対処について教えてください。

ランサムウェアは、感染すると端末等に保存されているデータを暗号化して使用できない状態にした上で、そのデータを復号する対価を要求する不正プログラムであると理解しております。

ランサムウェアへの一般的な対応としては、

- ① 感染しないこと
- ② 暗号化された場合は、データの復旧を可能とすること

になるかと存じます。

KUSANAGI マネージドサービスではご契約の内容にもよりますが、1つ目の、感染しないことへの対応策としては、システムのアップデートを定期的に行うことにより脆弱性を減らすこと、WAFなどを用いて侵入を防ぐことなどがございますが、対応は可能でございます。

2つ目のデータやシステムの復旧については、スナップショット等を用いたシステム全体のバックアップとリストアにより可能でございます。KUSANAGI マネージドサービスでは、標準で月1回2世代、オプションで頻度や世代数を増加させてのバックアップを実施しており、リストアすることで復旧が可能です。

もっとも、過去ランサムウェアに感染して対価を要求されたような事例はございません。

Q5 従業員数については、増員計画はありますか、それとも増員せず少数精鋭でいきますか。

現在の計画では当期中において5名のエンジニアを中心とした採用を予定しております。来期以降についても当期計画同等以上の採用は継続して行っていく予定でございます。

Q6 改めて、貴社の KUSANAGI マネージドサービス、クラウドインテグレーションサービス等、競争力の源泉や競合優位性について教えてください。

KUSANAGI Stack は WordPress 等の CMS を中心とする Web システムを高速、安全に動作させるための OS、エンジン、AI による実行基盤であり、OS としての KUSANAGI の累計稼働台数は7万台を超えております。国内においては類似のテクノロジーやソリューションを有する企業は当社以外に認識はございません。KUSANAGI Stack を創造することのできる当社の開発体制、ハイパーオートメーション技術の実現可能な開発陣、商標や特許発明等の知的財産権等は当社の知的資本であり、知的資本の形成において競合優位性を有するものと考えております。

当社の限界営業利益率および限界経常利益率は40%を超えるものと考えておりますが、これは、当社の知的資本の優位性の具現化であり、また、これが競合優位性になるものと考えております。

Q7 配当等の株主還元策に関して現時点で想定しているものはあるのか。

株主還元については、企業価値の向上が第一であると認識しておりますが、短中期的には配当政策を、中長期的には自己株式取得についても、当社の成長ステージ、財務健全性、税制等の法制度、機動的な投資資金の確保の必要性、ROE等を総合的に勘案して、検討していくべき事項であると認識しております。

Q8 現在 34 カ国 251 地域でサービス展開されているかと思いますが、今後の海外戦略と成長性について教えてください。

今後の海外戦略として短中期的に重視しているのは、当社の特許発明、商標、ブランド等知的財産権のライセンス展開でございます。特に北米のホスティング市場や CDN 市場等は日本の 15 倍前後の市場規模があるものと認識しており、1 社あたりの契約額も市場規模に相関するものと考えております。

また、ライセンスはその性質上、言語や場所による障壁がクラウドインテグレーションサービスや KUSANAGI マネージドサービス等に比して少ないため、また、本年 8 月以降に成立が見込まれている特許に関するニーズをつかむことができれば、海外でのライセンス展開の現実的可能性および契約高も相応に見込めるものと考えております。

Q9 技術革新による市場環境の変化は、一つの大きなリスク要因かと思われそうですが、ChatGPT 等による競争環境の悪化の可能性について教えてください（「ONIMARU」と ChatGPT を連携等の戦略も交え）。

ご指摘のとおり、技術革新による市場環境の変化は、それに対応することができなかった場合には、一つの大きなリスク要因になるものと認識しております。一方で、先の質問で回答したとおりでございますが、当社の優位性は KUSANAGI Stack を創造することのできる当社の開発体制、ハイパーオートメーション技術の実現可能な開発陣、および商標や特許発明等の知的財産権等は当社の知的資本にあるものと考えており、当社の知的資本の形成に技術革新を取り組むことができれば、さらなる優位性の確保が可能になると認識しております。

ONIMARU と ChatGPT の連携については、まだ研究開発段階のものではございますが、今後、ハイパーオートメーション技術の活用には、中心となる自動化技術の他、AI 同士の連携も重要になるものと考えており、ChatGPT のような大規模言語モデル等を用いた AI 技術についても注視して参りたいと考えております。

Q10 利益率は高いのですが、売り上げの伸びは低い気がしますが、今後売り上げの伸びも大きくなるのでしょうか。

先の質問で回答したとおりでございますが、当社の優位性は知的資本の優位性にあるものと認識しており、利益率は知的資本がもたらす生産性の具現化であるものと考えております。技術革新や市場環境の変化が年々早まっている現代の情報技術資本主義社会においては、高い利益率の実現可能な背景としての生産性が売上拡大の前提条件になるものと考えおり、足下の当社業績もその傾向があるものと認識しております。

Q11 国際特許の今後の見通し、海外での活動状況、国内事業者データセンター増設の影響の有無について教えてください。

現在、特許協力条約の規定による国際出願済みの特許発明は Web ページ高速化エンジン「WEXAL® Page Speed Technology®」および戦略立案 AI「David」に関する 2 件であります。

(1) ウェブコンテンツの自動表示制御方法

<https://patentscope2.wipo.int/search/en/detail.jsf?docId=W02021117268>

(2) ウェブコンテンツの自動高速表示制御方法

<https://patentscope2.wipo.int/search/en/detail.jsf?docId=W02021234882>

どちらも世界知的所有権機関（WIPO）のウェブサイトでご確認いただけます。

2 つの特許発明とも本年 8 月以降に日本および米国で具体的な特許権として取得できる見通しでございます。

海外での活動状況については、先のご質問で回答したとおりでございます。

国内事業者データセンター増設の影響でございますが、一般論としては、その分の市場が増加することになりますので、ポジティブではございますが、主要クラウドプラットフォームにおける現在の KUSANAGI の提供状況に鑑みますと、当社の業績への影響はあまりないものと認識しております。

以 上